

週報

感染性胃腸炎(腸管病原菌)検出

センター受託検査分より

検出菌 ウイルス	平成29年												平成30年																
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月 ~3日	6月 ~10日	6月 ~17日	6月 ~24日	7月 ~1日	7月 ~8日	7月 ~15日	7月 ~22日	7月 ~29日	8月 ~5日	8月 ~12日	
カンピロバクター	61	68	80	122	83	118	142	87	98	161	109	84	37	39	48	105	75	24	13	17	17	17	24	22	34	25	32 (33)	20	
病原性大腸菌	107	105	89	113	64	135	206	161	102	112	73	110	66	51	44	98	78	20	17	26	20	16	27	25	25	18	22 (24)	17	
腸管出血性大腸菌	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	
サルモネラ	0	1	7	11	10	13	18	29	9	12	16	3	3	1	1	5	3	3	6	2	9	2	1	4	1	4	1 (3)	7	
黄色ブドウ球菌 MSSA	6	11	12	15	9	21	32	17	24	24	9	12	14	11	7	24	10	2	4	1	3	0	4	4	5	3	10	7	
黄色ブドウ球菌 MRSA	16	19	13	17	15	23	27	16	22	19	15	16	12	11	13	12	12	4	3	6	4	2	1	3	5	3	3	1	
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	2	1	3	0	5	9	11	5	14	3	1	0	7	5	3	1	1	1	0	0	1	0	0	1	2	2	0	
ロタウイルス	1	0	1	6	6	3	1	1	0	0	0	0	2	11	18	50	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	0	0	0	1	0	0	2	0	1	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ノロウイルス	7	4	8	6	11	13	8	2	1	3	7	21	13	13	17	4	4	0	1	0	1	1	1	0	0	2	0	0	

* () は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

広島県感染症発生動向週報

平成30年第32週(8月6日~8月12日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	6	結核	6		1			4		1
三類	2	腸管出血性大腸菌感染症	2				1			1
四類	3	重症熱性血小板減少症候群	1			1				
		日本紅斑熱	2			1				1
五類全数	14	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1						1	
		後天性免疫不全症候群	1							1
		梅毒	6					2	1	3
		百日咳	6		4			1		1

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市 西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町 北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

広島県感染症情報センター 提供

定点・全数把握疾患週報【広島市】(第32週 8/6～8/12)

広島市感染症対策協議会/広島市感染症情報センター 提供

1. RSウイルス感染症

定点当たり2.00人と、多い状況が続いています。生後数カ月までの乳児がRSウイルスに初感染した場合は、重症化するリスクが高いため、特に感染を避けるための注意が必要です。

2. インフルエンザ

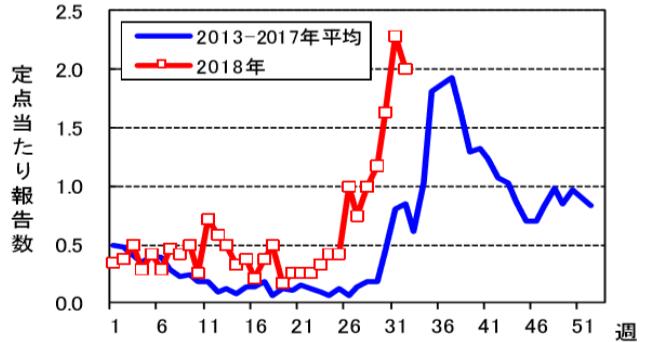
定点医療機関から19人(定点当たり0.54人、迅速診断キット:すべてA型陽性)の報告がありました。この時期としては多くなっていますので、今後の動向に注意が必要です。

手洗いを励行するとともに、症状などからインフルエンザが疑われる場合は、咳エチケットを心がけ、速やかに医療機関を受診しましょう。

3. 梅毒

2件の報告があり、今年の累計は73件となりました。

RSウイルス感染症の流行状況



【参考】厚生労働省「RSウイルス感染症Q&A」
https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/rs_qa.html

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号	急増減		前週と比較しておおむね1:2以上の増減
												↑	↓	
フィレン	インフルエンザ	19	0.54	0.01	⇒	小児科	流行性耳下腺炎	6	0.27	0.67	⇒	↑	↓	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
小児科	咽頭結膜熱	8	0.36	0.69	⇒	眼科	RSウイルス感染症	44	2.00	0.85	⇒	↑	↓	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	43	1.95	1.19	⇒		急性出血性結膜炎	-	-	0.08	⇒	↑	↓	ほとんど増減なし
	感染性胃腸炎	57	2.59	3.62	⇒		流行性角結膜炎	10	1.25	1.10	⇒	↑	↓	ほとんど増減なし
	水痘	5	0.23	0.55	⇒	基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	⇒	↑	↓	ほとんど増減なし
	手足口病	35	1.59	3.30	⇒		無菌性髄膜炎	-	-	0.31	⇒	↑	↓	ほとんど増減なし
	伝染性紅斑	1	0.05	0.20	⇒		マイコプラズマ肺炎	2	0.29	0.17	⇒	↑	↓	ほとんど増減なし
	突発性発しん	8	0.36	0.44	⇒		クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	⇒	↑	↓	ほとんど増減なし
	ヘルパンギーナ	21	0.95	1.40	⇒		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	⇒	↑	↓	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	35
小児科定点数	22
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■ 全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	4	87	男性(70歳代)、男性(80歳代)、女性(80歳代)、男性(90歳代)
5	梅毒	2	73	男性(20歳代)、女性(20歳代)
5	百日咳	1	31	女性(10歳代)

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	発熱(37.9) 上気道炎	4	男	2018/07/05	咽頭拭い液	A群溶血性レンサ球菌
感染性胃腸炎	下痢	1	女	2018/05/28	糞便	ノロウイルスG2 アデノウイルス2型
手足口病	発熱(39.9) 紅斑 髄膜炎	0	男	2018/06/16	咽頭拭い液 糞便	エンテロウイルス71型
手足口病	丘疹 口内炎	4	男	2018/07/02	咽頭拭い液	エンテロウイルス71型
流行性角結膜炎	結膜炎	32	男	2018/06/15	結膜擦過物	アデノウイルス54型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載